

多文化共生の進んだ国ブラジル —事実とは何か？目と耳、頭と心で捉えたブラジル—

学校所在府県：奈良県

学校名：西大和学園中学高等学校

名前：丸谷 貴紀（英語）

実践教科：英語（授業）・SGH 研究 I

（放課後）・模擬国連活動（放課後）

指導時数：7 時間

対象学年：中学 2 年生～高校 1 年生

対象人数：241 人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

「ブラジルは物理的には一番遠い国だが、精神的には一番近い国だ。」「秘めた力が大きすぎて非常に未恐ろしい国だ。ブラジルは。」日本の約 23 倍もの広大なブラジルのごく一部しか知らないし、一部のひとしか関わっていないが、これが私の率直な感想である。

JICA 関西での事前学習で『ブラジルという国は「ブラジルって…」というように、一言では表せない。それがブラジルです』と聞いた。広大な国土ゆえ、多様な気候で生きるブラジルの人びと、先住民のインディオ、進出し支配していたポルトガル人、奴隷としてアフリカから渡ってきたアフリカ人、移民として本国を離れたヨーロッパやアジアの人びと。時代とともに混血が進み、多文化共生の社会も築いていったブラジル。この国を知れば知るほどなるほどブラジルという国は一筋縄で捉えるのが相当困難だなと感じた。

ブラジルに渡ると『この国は資源にも気候にも人にも土地にも恵まれているのに、なぜ貧富の格差、環境破壊問題、治安問題など様々な問題が山積しているままなのか。真剣に取り組めば解決できる気がするが…。もしかしたら恵まれすぎて、いわば「過ぎたるは及ばざるが如し」なのかな』とまで思った。

この研修で会った多くの人から、ブラジルの情報からブラジルの地理的・歴史的な知識、他の国でのこと、日本の学校や地域のことまで実に多くのことを教わった。全てが考える種（新しい視点）となつて、考え続けた 2 週間であった。「知れば知るほど世界は広がる。飛び立て若者よ。」

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

この研修への参加を決定的なものにしたのは、本校の模擬国連活動の生徒と関わっていたときのことであった。開発途上国についての書籍で述べられている事実、ネット上にある情報、メディアで報道されること、これらが事実だという実感はどうすれば持たせてあげられるのか。そう。私にはその感覚を伝えられる痛切なる体験がなかったのだ。ブラジルでいうファベラのようなところに行ったことがなかった。したがって、裕福な現代の日本という環境で育った私は「食べるものがない、水も十分でない、教育も受けられない」といった環境で育っている人がいることが想像はできても、実感が湧かなかったのだ。

今ある「当たり前」は「当たり前ではない」ということを少しでも感じられる生徒を増やしたい。少し先でもしばらく先に大人になってからでもいいが、教育が受けられる有り難みや幸せを実感できるようになって欲しい。現在、グローバル社会の流れが、海外の出来事などもメディアによって放送される時代。その情報をキャッチできるようになれば世界の捉え方が変わる。必要なのはしっかりとしたアンテナ。人は誰しも関心がなければ感心を抱かない。

そこで、これからますますの成長が期待できる中学 3 年生にひとつアンテナを立てていこうと考えた。また、偶然にも今年度から本校が文科省から認定を受けたスーパーグローバルハイスクール(SGH)活動の一部、放課後の活動として受講している生徒には、将来グローバルビジネスリーダーになる生徒が出てくることを期待して、継続的に授業を行うことでしっかりとしたアンテナを立てていくことにした。

書籍やインターネット、メディアの報道など情報を得るツールは現在たくさんある。しかし、その真意は文面からでは分からない。これから情報化社会で生きていく本校の生徒には「情報は鵜呑みにしない」「自分の目と耳と頭と気持ちで情報を検証する」「常に多角的な視点をもつ」ことが必要になる。そういった素地でも身につけさせたいと思って実践授業を設定した。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 ブラジルの イメージと実際 * ブラジルに目を向ける * イメージと現実には隔た りがあることを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート結果をランキング形式で発表する。イメージと実際を比較・検証 ● イメージと実際に開きがある項目に関しては、写真や映像、データで裏付けを紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● 写真 ● TVCM (動画) ● ワークシート
2・3 時限目 日本の ODA から 繋がりを知ろう * 日本政府とブラジルがど のような繋がりがあ るのを感じる * 写真から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の ODA (in ブラジル) を紹介する。ベトナムとカンボジアに対する ODA と比較 ● 訪問地の写真やブラジルから持ち帰ったモノを見せながら、現地の様子などを説明する。 ● 写真からそこに写っている人たちの生活を想像し、グループで話し合う。プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● 写真 ● ブラジルのモノ ● ワークシート
4・5 時限目 ブラジルの強みだけを みて CM を作ろう * 主体的に取り組ませること で、植え付けられたも のではない「実感」を抱 いてもらう	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師が寸劇をする (ブラジル企業が日本、ブラジルの現状を伝えて)、そのグループに分かれて ● ミッションを与える。 ① CM を作成せよ! ② 市場は日本! ③ 数字を入れよ! ④ 30 秒で訴えよ! ● 業種はコーヒー、肉類、自動車。 ● 資料と ipad でグループワーク。 情報を集めるための質問集 ● 作成した 30 秒 CM を発表 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● 写真 ● ワークシート
6・7 時限目 ロールプレイ ブラジルが抱える 6 つの大問題 * 自分の意見とは違う意見 の役割を担うことで、固 定観念を持っていたこと を実感させる * 世の中の問題は複雑に絡 み合っている。その繋が りを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルが抱える課題を 6 つ紹介する。研修中に経験したことを交えながら ● グループ毎に 1 つの課題を担当させる。 ● 担当した最優先課題が解消できれば、残りの 5 つの課題にどのような波及効果が望めるかを考えさせる。 ● グループ内で話し合ったことをプレゼンテーションする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● 教材プリント ● ワークシート

3. 授業の詳細

1 時限目：ブラジルのイメージと実際

ねらい…ブラジルに目を向ける。イメージと現実には隔た
 りがある。定説を疑え！創造するには想像から。そして想像を検証。

◆内容◆

- ① 7 月にブラジルのイメージについて取っていたアンケートの集計結果をランキング形式で発表。
 - ・ 10 位 コーヒー 9 位 日系人が多い 8 位 美人が多い
 - ・ 1 位 カーニバル (陽気) 2 位 サッカー
 - ・ 6 位 黒人が多い 7 位 貧富の差が大きい・貧困層が厚そう・格差社会
 - ・ 5 位 広い 4 位 治安は悪そう 3 位 アマゾン
- ② イメージと実際を比較。ベトナム・カンボジアとも比較。
 - ・ コーヒー豆の輸出世界第 2 位がベトナム



サンパウロの公立学校

- ・貧富の差：国連によると貧富上位 10%と下位 10%の格差は、ブラジルは 56 倍！
ベトナム 8.9 倍。カンボジア 9.4 倍
- ・世界平和度指数：日本 5 位。ベトナム 34 位。ブラジル 83 位！カンボジア 108 位。

！ココがポイント

短めの映像が効果的。数字を見せることで実感が湧く生徒が多い。

- ③ イメージと実際に開きがある項目に関しては、写真や映像、データで裏付けを紹介。
 - ・ブラジルで盛んなスポーツはサッカーだけではない。バレーは男女ともに世界トップクラス
 - ・モータースポーツも盛ん
 - ・白人 54%・ムラート 39%・黒人 6%・黄色 0.4%
 - ・ピラニアの定説を覆す！
- ④ ランキングの番外編
 - ・マテ茶の定説を正す。サッカーワールドカップとCM

上位 10%と下位 10%の貧富の格差

上位 10 位		下位 10 位		
	国名	格差	国名	格差
1	ホンジュラス	98.6	スロバキア	5.14
2	ポリビア	96.2	ウクライナ	5.25
3	アンゴラ	74.6	チェコ	5.25
4	ハイチ	72.2	フィンランド	5.61
5	コモロ	60.6	アフガニスタン	5.69
★6	ブラジル	55.8	ベラルーシ	5.76
7	コロンビア	51.1	カザフスタン	5.94
8	ベリーズ	44.9	パキスタン	5.97
9	南アフリカ	44.2	セルビア	6.02
10	グアテマラ	42.4	ノルウェー	6.06

生徒の反応

▶ ムラートって？黒人みたいな人種でしょ？白人でも黄色系でもない。あれ？混血だから黄色？黒人？ではないのは分かってきたけど…

生徒の感想

- ▶ 1つの情報を全て鵜呑みにするのではなく、まず情報を手に入れたら、その情報を多角的に検証し、実際に見ないといけない。
- ▶ 僕は日本で 16 年間生活してきたので、日本的な物事の考え方ができない。ベトナムの貧困問題を考えるのであれば、ベトナム人の視点を持てるようにならないといけないなと感じた。

◆所感◆ メディアの報道や TVCM など異なるイメージがついた背景を検証し、立証を目指して仮説から立てるといったワークショップに繋げても面白かったかもしれない。メディアリテラシーを学び、情報の本意を掘む姿勢が身につけられるきっかけとすることもできた。

2・3時限目：日本のODA(2国間援助)(対ブラジル・対ベトナム・対カンボジア)から繋がりを知ろう

ねらい…10月の海外探究旅行で行くベトナムとカンボジアにはどんな問題意識を持って行くか。日本政府とブラジル(ベトナム・カンボジア)がどのような繋がりがあのか。写真からブラジルのイメージを広げる。フォトランゲージから学ぶ現実の切り取り方。

◆内容◆

- ① これからベトナム・カンボジアにどんなことを探究しに行くかをグループのテーマと共に発表。
 - ・事前学習などを通じて、関心のある課題やテーマについてプレゼンテーション
- ② どんな目的意識を持ってブラジルに渡ったか。何を考えながら訪問地を回ったのか。
 - ・行程表にしたがって訪問地(街の様子)をパワーポイントのスライドで紹介
 - ・研究テーマは持っていたが、ブラジルで興味が広がった
 - ・ブラジルから持ち帰ったモノ(ピラニアのはく製・アサイー・カカオ豆・ピラルクのウロコなど)
- ③ 日本政府とブラジル・ベトナム・カンボジアの繋がりを紹介。ODAを知ろう。
 - ・ODAの用途を『JICA PROFILE』を使って理解



▲アマゾン川の畔より

④ フォトランゲージとは？

- ・写真からそこに写っている人たちの生活を想像し、グループで話し合う。その話し合った内容を全体にプレゼンテーション
- ・写真を撮るということは「その空間を切る」ということ。撮りたいものを撮りたかった通りに撮るための写真のテクニックを説明

！ココがポイント

小道具（ピラニアのはく製など）は生徒を引き付ける！旅では躊躇せずに購入すべし。特に生徒が知っているモノは。

生徒の反応

- ▶ フォトランゲージって何？
小話作り？笑いは必要？

生徒の感想

- ▶ 交番というシステムがブラジルに輸出され広がっているのには驚いた。日本の当たり前が海外での課題解決の糸口になると思った。
- ▶ ブラジルは別として、日本は他のアジアの国々と結びつきを強くするためにもどんどん援助していくべきだと感じた。特に教育面で。

◆所感◆ スライドの写真を見ながら脳内旅行をしてくれたようだ。最後のプレゼンでは生徒はイキイキし始めたが、一方的に話す時間が長く、放課後の活動としては写真の量を減らしてポイントを絞るなどの工夫をしてもよかった。ブラジルの話を聞きながら、ベトナム・カンボジアに旅していることを想像し、自分なりの問題意識を考えさせるということではできたようなので一安心。

4・5時限目：ブラジルの強みだけを見てCMを作ろう

ねらい…主体的に取り組ませることで、植え付けられたものではない「実感」を抱いてもらう
ブラジルと日本の市場におけるつながりを考えさせる

◆内容◆

① 同僚との寸劇。

- ・場面はリオ五輪を控えたブラジルの企業が日本の市場に参入を試みているところ。ちょうど日本の高校生が、開発途上国でのビジネスプランを考え中。彼らにアイデアを出させよう。

② ミッションを与える。

- ・①CMを作成せよ！ ②対象とする市場は日本！ ③数字を入れよ！ ④30秒で訴えよ！
- ・業種はコーヒー、肉類、自動車。これらの基礎情報をまとめた資料を配布。[資料1](#)

③ ipadでグループワーク。

- ・追加ミッション（情報を集めるための質問集）に取り組ませる

④ 作成した30秒CMを発表

生徒の反応

- ▶ ネットにあがっているのが肯定的なものよりも否定的なものが圧倒的に多いのはなぜ？

！ココがポイント

「第一次産業≒貧しい」というのは資本主義社会でのレッテル。潤沢な資源のあるブラジルを感じさせる問いを各チームに配布。

生徒の感想

- ▶ いつも問題解決策を考案する時に、悪い点ばかりを挙げて、それを改善しようという方向に持って行かれがちだが、長所を伸ばす計画があってもいいと思う。
- ▶ 今日のCMのような短時間で分かる話を作るのは面白かった。
- ▶ メリットから考えていくと意外とデメリットを克服していたり、新しいことも思いつきやすい！

◆所感◆ 「ブラジルのココがすごい！」ということを考えさせることには成功したと思う。日本にはないブラジルの資源力や未開発地域をどう生かすか。ブラジルのモノをいかに日本人に売り込むか、そういった点において、生徒は積極的に調べていた。中には事前に教員が想定していなかった意見も出てきた。

6・7時限目：ロールプレイ ブラジルが抱える6つの大問題 —あなたならどれから解決する？—

ねらい… *自分の意見とは違う意見の役割を担うことで、固定観念を持っていたことを実感させる
*世の中の問題はどれも複雑に絡み合っている。その繋がりを考える。

◆内容◆

- ① 研修中に経験したことを交えながら、ブラジルが抱える課題を6つ紹介する。
 - ・ これまでに実施した授業のことを復習しながら6つの大問題を紹介。
 - ・ 詳細（一部）は「共通資料」に記載。[資料2]
- ② 個人的にどの問題が最優先して解決すべき問題だと感じているかワークシートに記入。[資料3]
- ③ グループ（党）毎に6つの問題のうち1つを担当させ、問題意識を植え付ける。
 - ・ 担当した課題が最優先に解決されるべき課題である理由などが書かれた資料を読み込ませる。
- ④ 残りの5つの課題にどのような波及効果が望めるかを考えさせる。
 - ・ 担当した課題が解決できたという前提で、他の5つの問題がどう解決するかを議論。
 - ・ 注意：担当した課題の解決策を練るのではない。
- ⑤ グループ内で話し合ったことを党首によるマニフェストとしてプレゼンテーションさせる。
 - ・ プレゼンを聞いてから、どの党を支持するか投票行動に移るためにメモを取りながら聞かせる。

生徒の反応

▶ え？インフラチームって多国籍企業？でも雇用まで生み出してくれて国を変えてくれそうだよな！？指示しようかな…。ん？危ない？

！ココがポイント

自分の意見と全く違う「問題」を最優先に考えるグループを担当させるのが面白い！

生徒の感想

- ▶ 僕らは環境問題が原因で経済が悪化、治安が悪化すると考えた。
- ▶ 「木を見て森も見る」。これ、大事だと再確認しました。
- ▶ 自分が大切だと思っていた班の人の演説を聞いて、自分には固定観念があったことに気付かされた。

◆所感◆ 2時間ノンストップで実施したが2回に分けてそれぞれ1時間半くらいにしたらもっとよかつただろう。発表者の主張を聞いて党首討論のような議論の場があれば見解がもっと深まり、役割に対する思い入れも強くすることができただろう。役割に固執して活動開始時点の自分の意見とは全く異なる意見を主張し始めるなど、「立場が違えば意見まで変わってくる。人の背景まで知れば、その人をより正しく理解できそうだ」という学びに繋げることには大成功でした！

4. 成果

「実感を湧くようになるためのアンテナを立てる」これが実践授業の最大の目的であり、「1つの情報に固執したり鵜呑みにしたりしない」「多角的な視点から物事を捉えられるような人になってくれ」といった2つの情報に対する姿勢も研かれることを期待して実践授業を組み立てた。これらの意図がしっかりと伝わり「ブラジルに行ってみたいです」「探究旅行で見たいものが増えました」「固定観念が壊されました」「やっぱり情報は持っているべきですね」といった声が頻りに届いたので、実践授業を通じてアンテナ作りと2つの姿勢に対する素地は芽生え始めたという実感を得た。

5. 課題

2度と味わえないであろうと思うほど充実した行程で、あまりにも多い情報量とそれに付随した体験の多さゆえ、未だに私自身にインプットされたことが整理されていないように思う。時間をかけて今後もアウトプットすることで熟成させていこうと思う。これまでの実践授業では私のブラジルでのインタビューから得られたコメントなどを資料にしてほとんどの授業で「意図」を込め過ぎた感が否めない。授業に参加してくれた生徒や見学に来てくれた先生方から「もっと普通にブラジルの話が聞きたかった」という声を毎回のよう聞いた。丸谷というフィルターを通し過ぎた点が課題として残りました。フィルターのかかっていないブラジルでの体験談は、今後授業の雑談で。

参考文献 「ブラジルを知るための56章」 明石書店
世界地誌シリーズ⑥ブラジル 朝倉書店

資料1

<p>追加ミッションα：ミニミッションをクリアせよ！！①</p> <p>課題</p> <p>1. 日本は肉をどこから輸入しているか？(牛肉・豚肉・鶏肉)</p> <p>2. ブラジルはどんな肉類を生産しているか？</p> <p>3. ブラジルの牧場は主にどこにあるか？その土地はどんな土地であれば十分か？</p> <p>4. 日本の産肉カテゴリーは現在どれくらい多いか？少ないか？</p> <p>5. 日本の肉の輸入量は世界的に何位くらいなのか？また肉の消費量は世界的に何位くらいなのか？</p> <p>6. ファーストフード企業はどの肉をどこから輸入しているか？</p>	<p>追加ミッションγ：ミニミッションをクリアせよ！！②</p> <p>課題</p> <p>7. ブラジルがスポーツ大国であるわけは？</p> <p>8. ブラジルの有名な肉料理は？</p> <p>9. 農産物以外の店で持ち上げに行きたい物は？</p> <p>10. 日本にあるブラジル料理店はどれくらいあるか？何料理が一番多いか？2番目は？</p> <p>11. 肉の生産が「増える時期」はあるか？それはなぜか？</p> <p>12. ブラジルでさつと流行るだろう日本のモノはなんだろうか。</p>
--	--



▲ブラジリア (光)

資料2

第4弾 ブラジル実践授業 共通資料

19177014

『僕が見たブラジルの6つの大問題 一あなたならどこから問題解決を図る？』

背景の指図

・2007 ビル・ゲイツによるハーバード大学でのスピーチ(不平等が最も深刻な社会問題である)以下抜粋。「世界で最も深刻な不平等を解決するためにどう努力してきたかについて、自分自身で判断するよう求める人が増えています。人畜である以外には身分と何の共通点もない地球の遠隔地の人たちをどう救ったかについて自分自身で判断するよう求める人が増えています」

・いま世界中からたくさん人が来てきています『旅先がどのくらいどんな影響があるかという質問』結果が、例によって交通手段の早に変わることが、途道に近づいてきた者がいるとしている人々のために止まるか減らすか(規制)、高齢者は次々と歩行者を無視していききました。高い車に乗っている人、交通違反しがち

【上位10位と下位10位の格差は】イギリスで14倍、アメリカで16倍、ナイジェリアで18倍、南アフリカで28倍、写真次に日本は1.5倍、ブラジ力は58倍、(中央アフリカ・69倍、ナミビア・128倍、ボリビア・188倍)

インフラ整備

・電力需要は電力供給に大きく依存しており、毎年の費用は電力供給能力が不足している。これに対してブラジル政府は水力発電所の増設を行い、水力発電への依存度の低減を図っている。

・サンパウロ首都圏はブラジル全人口の約1割が集中する同国経済活動の中心地であるが、その中心部を構成する手用子において開発する供給によって、交通の遮断、周辺地域への浸水、汚染等の被害が生じている。これまでの洪水発生率は平均で2年に1回であったが、この対策整備により洪水発生率は100年に1回となると想定している。なお、洪水防止により行われる経済効果は、住居、工場及び商業施設への被害回避額が2年間で約2億1,800万米ドル。

環境破壊問題

・森林火災の森林破壊を招くブラジリア、「人類最大の危機の一つである環境破壊」が懸念されている。

・自然の楽園とも呼ばれ、「緑の地球」という異名を持つ世界最大の森林地帯、アマゾン。ここには大小合わせて300万種と推定される動植物や、まだ分類できていない数多くの生物が生息している。この地域の生態系が、地球の酸素の半分以上を受け持っているという説もある。そこを覆っているアマゾン川は、こちらもまた世界の水量と長さを持つ。ここに豊富な天然資源が眠っている。

・ブラジルという国名は、「発見」された地帯の地名と見られることができたパウ・ブラジル(ブラジルの木)に由来する。この木はインディアナによってつくられた材料として発見されたが、船の寄った場所でもあった。

・1992年、ドイツの当時のコール首相は先進国7か国による「ブラジル熱帯雨林保護計画」を提唱し、先進国はアマゾンに対するブラジルの主張を認め、ブラジルもアマゾンは世界の遺産だと認める姿勢を強めた。

治安

・日本国外務省の「海外安全ホームページ」では最高「5」までの危険度の分類の中で、ブラジルは「注意喚起」に相当する「危険度1」と指定されている。

・外務省：日本の約3.5倍の警察官の件数

・外務省のホームページの情報はなかなか的確で、適切ではあるが、最も現実が近い二次情報源の事情がほとんどである。

・犯罪発生でブラジルを恐れる人々でさえ、住居がいかに防犯に対して完璧になっているか気付く。住宅は高い壁に囲まれ、窓は鉄棒で下され、ドアには鍵が2重にも3重にも掛かっている。



▲路上のご老人

ブラジル6つの大問題を効率的に解決するには？

①解決するべき優先順位をつけよう！

政治(国)	インフラ	農産物	教育	治安	貧富の差

1) 1番にした理由を一言！

2) 2番にした理由を一言！

②自分の役割は [] で、 [] の問題を1番に解決したいと考えている！

1) この問題を1番に解決することで得られるメリットとは？
私達組と授業を受けてみんなで作ってあげよう！

2) みんなで作った意見をまとめ、他のグループを説得しよう！

③他のグループの意見をメモしよう！

④達成すべき問題は必ず、 [] である！！
なぜなら……

⑤考えられた発案の立案に立ち寄り、感じたことや興味したことを書いてみよう！

出席・登校 年 組 姓 氏 名

資料3